

(お知らせ)

柏崎刈羽原子力発電所2～5号機における定期安全レビュー(第2回)
の実施について

2016年3月14日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所2～5号機(沸騰水型、定格電気出力110万キロワット)は、「柏崎刈羽原子力発電所原子炉施設保安規定第10条」にもとづき、定期安全レビューを実施いたしましたのでお知らせいたします。

定期安全レビューは、最新の原子力発電所における保安活動と同水準の保安活動を維持しつつ安全運転を継続できる見通しを得ることを目的に、10年を超えない期間ごとに、原子力発電所における保安活動の実施状況の評価及び保安活動への最新の技術的知見の反映状況の評価等を行い、原子力発電所の安全性・信頼性を総合的に評価するものです。

当所2～5号機における定期安全レビューは、第1回の実施(2006年3月29日お知らせ済み)以降、今回が2回目となります。

定期安全レビューの結果、前回の定期安全レビュー以降の「品質保証活動」「運転管理」「保守管理」「燃料管理」「放射線管理及び環境モニタリング」「放射性廃棄物管理」「事故・故障等発生時の対応及び緊急時の措置」「安全文化の醸成活動」の各保安活動で、管理面や設備面の改善及び「国内外原子力発電所の運転経験から得られた教訓」等の最新の技術的知見の反映が行われていることを確認いたしました。今後も自主保安活動を継続し、高い水準の安全性・信頼性の確保に努めてまいります。(別紙参照)

また、評価対象期間以降にケーブル敷設不備等の事象が発生しておりますが、当社は引き続き安全文化の醸成活動を行っていくとともに、発電所の課題を把握し改善の方策を検討することにより、発電所全体の組織風土や原子力安全に対する認識、業務品質の一層の向上を図り、プラントの安全性の維持・向上に努めてまいります。

以上

柏崎刈羽原子力発電所2～5号機定期安全レビュー（第2回）
報告書の要旨

1 当所2～5号機について

当所2～5号機は、定格電気出力110万キロワットの沸騰水型軽水炉です。運転実績は、以下のとおりです。

	2号機	3号機	4号機	5号機
営業運転開始	1990年9月	1993年8月	1994年8月	1990年4月
累積発電電力量 (億kWh)	1,219	1,015	933	1,407
計画外停止回数 (回/年)	0.17	0.05	0.25	0.08
累計設備利用率 (%)	53.8	51.0	49.3	60.9

(2014年3月31日現在)

2 評価対象期間

2005年4月1日から2014年3月31日

3 保安活動の実施状況の評価

「品質保証活動」「運転管理」「保守管理」「燃料管理」「放射線管理及び環境モニタリング」「放射性廃棄物管理」「事故・故障等発生時の対応及び緊急時の措置」「安全文化の醸成活動」について、各保安活動の改善状況を評価しました。

その結果、改善する仕組みが妥当であると判断しました。主な判断理由は以下の通りです。

- ・自主的に実施した改善が継続していること。
- ・不適合事象や指摘事項等に対する改善活動が、実施済みであるか実施中、もしくは計画済みであること。
- ・不適合事象や指摘事項等に対する改善活動が継続していること。
- ・同様な不適合事象や指摘事項等が再発していないこと、もしくは再発しているが更なる改善が図られていること。

なお、評価期間中に改善を実施した主な内容は以下のとおりです。

[品質保証活動]

- ・ 防災・安全業務の集中化に伴う防災安全部の設置
- ・ リスクコミュニケーター の設置 等

リスクコミュニケーターとは、原子力部門の情報を常に把握し、地域や社会の目線にたったリスクコミュニケーションを推進し、会社が認識し公表すべき原子力リスクを経営層等に提言する役割を担っている。

[運転管理]

- ・ 運転員の当直勤務の三交替制から二交替制への変更
- ・ シミュレータを使用した事前訓練等によるヒューマンエラー防止対応 等

[保守管理]

- ・ 新潟県中越沖地震後の設備健全性に係る点検・評価
- ・ 耐震安全性評価及び耐震強化工事
- ・ 現場に密着した管理業務実現の為に定期検査事務所の設置 等

[燃料管理]

- ・ 漏えい燃料発生率低減と発生時の対応 等

[放射線管理及び環境モニタリング]

- ・ 線量低減タスク（会議体）の設置による線量低減対策の促進 等

[放射性廃棄物管理]

- ・ 総合廃棄物タスク（会議体）の設置による廃棄物の課題検討
- ・ 分別等による廃棄物低減の取り組み 等

[事故・故障等発生時の対応及び緊急時の措置]

- ・ 免震重要棟への技術支援センターの移設
- ・ 原子力防災体制の見直し（ICS（Incident Command System）体制の導入） 等

[安全文化の醸成活動]

- ・ 安全と品質達成のための行動基準の定着活動の実施
- ・ 安全文化醸成に関する基本的な考え方の説明会の実施 他

4 保安活動への最新の技術的知見の反映状況の評価

保安活動への最新の技術的知見（安全研究成果、国内外の原子力発電所の運転経験から得られた教訓、技術開発成果、耐震新知見情報）の反映状況を評価した結果、原子炉施設の安全性を確保する上で重要な設備等について、最新の技術的知見を適切に反映している、反映が実施中である、もしくは反映を計画していることから安全性・信頼性の維持・向上を図っていると判断しました。

また、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえ、浸水防止対策の強化、電源機能の強化、注水・冷却機能の強化、水素爆発の防止、計測・監視機能の強化、緊急時体制の強化等を実施してきており、引き続き更なる安全性の向上に努めてまいります。

最新の技術的知見の主な反映事項は以下のとおりです。

- ・新潟県中越沖地震を踏まえた対応
- ・福島第一原子力発電所事故を踏まえた対応 等

今後とも原子炉施設の安全性・信頼性に関する重要な技術的知見が得られた際は、これら技術的知見を反映すべく継続して自主保安活動を実施してまいります。

以 上